

「発展」への段取り大切

2010 参院選 @島根

「平和」 島根から、どう発信



これをきっかけにして歴史研究を進めるなかで、対立を発展につなげるよう、相手も自分も周囲も賛同してくれる形に持っていく

——朝鮮半島の平和の問題について発信し、韓国や中国で反響を呼んでいます
35歳のとき戒厳令下の韓国に初めて出かけ、タクシーで見知らぬ男と相乗りとなった。日本人だと分かる、男は同行の韓国人の知人に怒鳴り始めた。後で聞くと「タクシーから突き落とせ」と言っていたという。「日本人が歴史問題を知らないだけならよいが、知ろうとしないことが許せない」と知人に言われた。エンジニアで歴史に全く関心がなかったからショックだった。

小松昭夫・小松電機産業社長にきく

韓国軍哨戒艦の沈没を巡って朝鮮半島情勢が緊迫している。安全保障は身近な問題だがひとごとのようにとらえがちだ。どうすれば島根からでも「平和」のメッセージが発信できるのか。また解決に向けて政治に何を期待するのか。朝鮮半島と日本列島からの平和文化の発信を唱える小松電機産業㈱松江市Ⅱの小松昭夫社長(66)に聞いた。(藤井満)

メモ 八雲村(現松江市)で1973年創業。85年に発売の高速で自動開閉するシートシャッター「門番」で急成長、94年に財団法人「人間自然科学研究所」を設立。呼称を巡って韓国と対立している日本海(韓国・東海)を「中海」と改称することや、竹島(同・独島)に「地球共生・縁結びの像」を建立することなどを提案している。

とで、加害側が主導権を取って突破口が開けると気づいた。そのためには段取りが大切だ。中国や韓国、シンガポールなどには数多くの戦争記念館がある。それらに40、50人のグループで出かけて献花してきた。
——「竹島の日」が2005年に成立し、島根と韓国間は緊張関係が続いています。竹島の日には賛成だったが、県議に「自民党の何人かは反対しない。全員一致する必要はない」と言った。あつれきが生まれたら韓国側の主張を県議会で話してもらえばいい。対立はお互いの主張を聞き合うチャンス。「発展」につなげるため、島根が主導権を握るべきだと思っていた。
この問題がいかに大切かを広く国民に知らせたことが小泉さんの最大の功績。鳩山さんも基地や安全保障条約とはどんなものか、広く国民に考えさせた。段取りを積み重ね、対立相手が日本を相手にせざるを得ない状況をつくるのが外交の仕事だ。「竹島の日」制定のとき、相手の主張を「聞く」ことから始めるべきだったのに「主張」から入ってしまった。交渉下手だ。
「人」という文字には、お互いに間合いを詰めることで対立を「発展」に止揚するという意味がある。そういう努力をしないのは「人でなし」。詰めようとして相手に避けるのは「間抜け」だ。そんな人が國家のリーダーだとしたら不幸なことだ。

小泉元首相の靖国参拝による中韓との対立、普天間基地を巡る国内の対立も「発展」に結びつけられますか